



第2回 PTA 講演会が行われました

8月3日（金）の夕方、医療法人臼井会 田野病院小児科部長 臼井 大介 氏 をお招きして今年度第2回目となる講演を行いました。第1回目の講演での保護者アンケートでは、

- * 子どもの特性について、つついマイナス面で考えがちですが、プラスにとれる考え方を改めてお話し下さって、子供の特性を活かせる援助をしていけたらと考える機会を頂き良かったです。将来、子どもに向く仕事を考える参考にもなります。

- * あれができない,できると捉えるより特性として苦手部分を理解し受け入れ周りの人も手助けしていくとうまくいく。→ 本人家族としては、それらを受け入れてもらえるのか環境が変わるたびに不安があります。伝え方は工夫が必要。等のご意見がありました。

今回は、保護者、教職員を対象とした講演を企画いたしました。

ご講演の中で、臼井先生には、前回のお話の振返りを丁寧に行っていただきました。

「発達障がい起因した障がいは中にはなく外にある。その障がいを和らげる手立てを考える。克服する術を身に付ける。病院では発達の特性の傾向を診断し、説明をする。治療は、その下地作り。整えて（克服術を）引き出すことが目的。どう使うかは本人の努力が必要。障がいを克服した時点で治療は終わる。」、また「例えば投薬などで、どういった点が改善されるのか。その時に注意しなければならないことはどのようなことなのか。」といったことが印象に残りました。

学校での生徒理解と同じで、医療の場合でも治療するにあたり、患者とのコミュニケーションが最も重要で、患者にどのような変化が生じているのかを注視しながら投薬の調整などをする必要があるとのことでした。

少人数でのご講演となりましたが、質問時間を充分に取っていただき、活発な質疑が行われました。臼井先生、ありがとうございました。

